昭和35年の中山道　民俗学者・宮本常一のアルバムから

宮本常一(1907-1981)は、生活用具や技術に焦点を当てた研究を行った民俗学者である。日本各地で精力的にフィールドワークを行い、その様子から旅する民俗学者とも言われた。膨大な著書・論文・資料と共に、全国で撮影した10万枚もの写真が残されている。この中に昭和35(1960)年3月2日に鴻巣を通る際に撮影された写真14枚が含まれている。
今回は、写真を管理する周防大島文化交流センター(宮本常一記念館)の協力を得て、鴻巣地区でおおよその場所がわかる4枚の写真を紹介したい。

1. 本町七丁目

右端に写るお店は、大石屋酒店(現：株式会社大石屋)である。大石屋の建物は変わっているが、現在も同じ場所にある。周辺は建て替えが進み、写真の面影はほとんど残っていないが、それでも中山道を歩けば、所々に昭和の面影を残す建物を見ることができる。なお、現在は本町七丁目であるが、この当時は元市町という町名であり、鴻巣市コミュニティバス(フラワー号)のバス停にその名前が残っている。

2. 加美町

加美のY字交差点である。現在は写真よりも建物が増えているが、面影はよく残っている。Y字の中央にある建物は、丸菱石油(現：コスモ石油)である。昭和35年当時は、交差点のすぐ横にガソリンスタンドがあった。交差点を直進すると新国道と言われた17号バイパス、左に行くと旧中山道となる。旧中山道には、かすかに高崎線の踏切と架線が写っている。電柱の建て替えだろうか、道路の脇に電柱が積まれているのが確認できる。中山道沿いには畑が広がっているが、昭和36年の空中写真では造成が始まり、昭和39年の空中写真では建物が建ち並ぶ様子が見られ、この写真撮影後間もなく市街化していったようである。

3. 八幡田(その1)

加美交差点の写真と次に紹介する写真の間に撮影された写真である。道路沿いに広がる畑と、その奥に屋敷林に囲まれた集落が見える。昭和36年撮影の空中写真との比較では、八幡田の17号バイパス北側などに似た景観を持つ場所がある。現在の八幡田周辺は、17号バイパス沿いこそ畑の残る場所は減ったが、17号バイパスから少し外れてみれば、畑や屋敷林の広がる光景が残されている。

4. 八幡田(その2)

畑の中に立つ赤玉ポートワインの巨大なオブジェが印象的な写真である。詳しい場所は特定できていないが、ボトル左奥の方に高崎線と考えられる盛り土や、高崎線に向けたと思われる看板が確認できること、台座に熊谷まで14kmの文字が確認できること、17号に接して集落があること、17号から高崎線際まで屋敷林が繋がっていること等から、八幡田の付近と考えられる。赤玉ポートワインは、壽屋洋酒店(現・サントリーワインインターナショナル)が明治40年(1907年)に販売を開始した甘味果実酒で、総合洋酒メーカーとしてのサントリーの土台を築きあげた商品として知られている。サントリーに確認したところ、昭和8年頃から高さ5mほどの赤玉ポートワインのボトルを広告用に製造し、各地で使用していたとのことなので、写真のオブジェもその中の1本なのだろう。

※【3. 八幡田(その1)】【4. 八幡田(その2)】：「いま」の写真は想定地で、正確な位置は特定できていません。
kounosusi@gmail.comへ情報をお寄せください。

古写真提供：周防大島文化交流センター(宮本常一記念館)

こうのす人 Vol.2

第48代 勝願寺住職　藤田 得三さん

徳川将軍家の家紋である三つ葉葵の紋を門に掲げる寺院として名を馳せる勝願寺は、鴻巣の歴史を知るうえで欠かすことのできない場所のひとつ。もともとは登戸地区にあり、応仁の乱の際は鎌倉の光明寺へと引き上げた時期もあったが、1573年に現在の本町８丁目に清厳上人により建立され、その後、徳川家康との交流が始まった。現住職の藤田得三さんは第48代目、鴻巣郷土史会の会長としても活躍している。

昭和７年、旧児玉町（現在は本庄市）生まれ。戦中に多感な少年時代を過ごし、終戦の混乱の中で中学、高校へと進み、群馬大学で教育学を学んだ。親戚の会社の手伝いや理科の教師を経て、縁あり、昭和38年に鴻巣へ。先代住職夫妻から寺の暮らしをひとつずつ学ぶ日々を過ごしながら、仏教を学ぶために大正大学へと通い、修了後は福井県大野市の善導寺にて研鑽を積んだ。

群馬大学では理科を専攻していた藤田住職。仏教という全く別の分野を学んだことについて伺うと、理科も仏教も、自然の摂理が根底に流れており、考え方が非常に似ていると感じるという。共に自然という、変わらずその場所にあり、そして決して容易には変えることができない、大きな宇宙のようなものを持ち合わせている存在だと話してくださった。

おだやかな佇まいの藤田住職だが、趣味はサッカー。小学生の時に出会い、中学、高校、大学と情熱を注いできた。その後、旧児玉町で実業団サッカーチームを作り、日本サッカーの礎を築いた名プレーヤーたちと試合する日々を過ごしたそうだ。今でも日本代表戦やＪリーグなどのサッカー中継を見ることがとても楽しみだという。

客殿に飾られている徳川家康の像。明治の大火でも焼失を免れた、貴重な寺宝である。

藤田住職には弊誌「こうのす」の題字を執筆していただいた。「皆さんに読める字をと考え、丁寧に書きました」と住職。しなやかで優しい雰囲気の字体に、住職のあたたかなお人柄を垣間見た気がした。

剣術・居合・試し斬り・短杖術　御指南致します

双月会

sougetsukai

■二人が相対して行う組太刀と、抜き打ちで斬る居合の稽古を通し、刀の操法と実戦的な感覚を身につけます。私たちの剣術、居合は、試し斬りで実際に斬れる「本物」の術です。

■短杖術は約90cmの杖を使用する武術です。お手持ちの傘などで護身が出来る短杖術は、女性やお子様の習い事としても最適です。古流に特徴的な体さばきによって身体の動きがスムーズになり、美容や健康の為にも好適です。

■武道未経験者、男女年齢問わず無理なく楽しく稽古できます。気分転換、エクササイズ、精神修養としても好適です。

稽古場所

鴻巣市民活動センター（毎週木曜日夜）
鴻巣市立第二体育館（隔週土曜日、日曜日）
※東松山、久喜（菖蒲）でも稽古できます。
※詳しい稽古予定日・場所は、
HPまたはfacebookで確認できます。

見学・稽古体験会

見学：いつでも大歓迎
稽古体験会：毎月開催
※見学・体験ご希望の方はご連絡ください。
050-3709-6604
nitouryu.sougetsukai@gmail.com

活動情報随時更新中！

ホームページ　双月会　検索
https://sites.google.com/site/sougetsukai2014/

facebook　双月会
https://www.facebook.com/sougetsukai